

三千院本往生要集について

——三千院の文学資料(三)——

奥
田
勲

The Sanzen-in Manuscript of *Ōjōyōshū*
(Literary Source Materials of Sanzen-in 3)

Ōjōyōshū is a representative work of the monk Genshin of the Tendai Buddhist sect. It is an ascetic writing which helped to establish concrete images of heaven and hell in Japanese minds.

It goes without saying that the *Ōjōyōshū* is a very important classic as seen from the influence it has exerted not only on Buddhistic thought, but on literature as well. It originated in the world of the Tendai sect, and while we cannot fully retrace the steps of its gradual dissemination today, the many extant manuscripts and the notes attached to them by succeeding generations, witness to their oral readings and help us to imagine the breadth and depth of the text.

It is well known that Ohara, north of Kyoto, was one of the important strongholds of the Tendai world. While we will not stop to examine this aspect now, among the many scattered temples that have kept the vestiges of former times, Sanzen-in which possesses Ōjōgokuraku-in as its central sanctuary, represents them in a most concrete way.

Ōjōgokuraku-in, also called Keishin-in, was, according to tradition, built by Genshin. Whether this is true or not, there is no doubt that Sanzen-in was a most suitable temple environment for the birth and spread of *Ōjōyōshū*. It is therefore natural to expect that a manuscript copy of *Ōjōyōshū* has been handed down there.

Though not a literary source material as such, this study will take up *Ōjōyōshū* as a work deeply related to the literary world, as the third item of literary source materials of Sanzen-in.

「往生要集」が仏教思想のみならず文学に与えた影響から見てもきわめて重要な古典であることは云うをまたない。それが天台世界で生まれ、次第に流布していった経過は今十分に跡付けることは出来ないにしても、残された写本の数々とそれに付された各時代の読誦の営為によつてその広さと興行きを想像することが出来る。

洛北大原はそのような天台世界の一つの重要な拠点であったことは云うまでもない。その様相はここでは措くとして、現在もその面影を残すいくつかの寺院が点在する中に、往生極楽院を中心堂宇に擁する三千院はそれを最もよく体現しているといえるであらう。

往生極楽院は恵心院とも呼ばれるように、源信が建立したという伝承がある。その当否はともかく、三千院が往生要集成立流布の環境として相応しい寺域であることは疑いがない。そこに往生要集の写本が伝えられているのは当然予測されることである。

本稿は、狭義の文学資料ではないが、文学の世界に深くかかわった作品として往生要集を取り上げ、「三千院の文学資料(三)」とする。

*

三千院円融蔵には現在二種の往生要集が伝来している。残念ながら二本とも残欠本であるが、ともに鎌倉時代の古写本である上、付された訓点も詳密であつて当時の読誦の様相がうかがえる善本である。甲上箱一二一号と登録された二本を今仮りに、A本とB本と名付ける。両本の書誌をつぎに記す。

A本は、

鎌倉時代中期写、綴葉装、斐紙、中及び尾欠、表紙欠、縦二四・一欄、横一五・二欄、一〇三紙、墨界(高二

○・四種、幅一・九種)、墨点(仮名、返点、声点、鎌倉中期及び室町初期カ)、

(内題) 往生要集巻上盡第四門半叡山首楞嚴院沙門源信撰

(末尾) 於此尚不応妄語行

B本は、

鎌倉時代初期写、粘葉装、斐紙、首尾欠、縦二四・四種、横一五・〇種、一〇紙、押界(高二〇・二種、幅二・

二種)、墨点(仮名、返点、声点、鎌倉中期カ)、他ニ数種ノ点アリ、

(書出) 日下独入黄泉底之時墮多百

(末尾) 身滅骨墻壁血肉作塗泥畫彩

A本は、巻上のほぼ全体であるが、途中

理必不可然、如浄名経云、雖觀諸仏国、及与衆生空、(引用は、日本思想大系『源信』の「往生要集原文」による。

以下同じ)

から、

仏言、是人受衣用敷大地、受揣食若須弥山、亦能畢報施首之恩、

までのおよそ六頁分を欠き、さらに巻末の、

脇曲、能令諸世間、一切衆生類、於諸菩薩衆、而生恭敬心、若有人能行、如是之善法、世世得增長、無上菩提願

(文中亦有廿二種失菩提心法、可見)(括弧内は割注)

を欠いている。

B本は、巻上の大文第一厭離穢土の第七惣結厭相の途中から同じく末尾近くまでの十丁のみを存するだけである

が、後に示すようにきわめて詳細な訓点が付されている。

本文の系統は、いわゆる留和本と分類されるもので、きわだった特徴はないが、二三の留意すべき点をあげておく。なお便宜のために、日本思想大系『源信』の「往生要集原文」と対比させる。頁段行は「往生要集原文」のそれである。

一、三三四頁上段一三行「信戒施聞慧慙愧、如是七法名聖財」はB本では、

「信戒施聞慧慙愧不放逸、如是七法名聖財」とある。

二、三三四頁上段二〇行「所謂黒繩等活地獄」の「等」字はB本にもある。

三、三三四頁下段三三行「骨毛皮肉致残害」の「致」字はB本では「被」とあるが「イタス」と訓じ、欄外に「致」と注記がある。

四、三三五頁上段一行「寂滅為楽」のあとにB本には「祇園寺无常堂西隅有頰梨鐘、ム音中亦説此偈、病僧聞音、

苦惱即除、得清涼楽、如入三禪垂生浄土、況復」の四一字が存する。

*

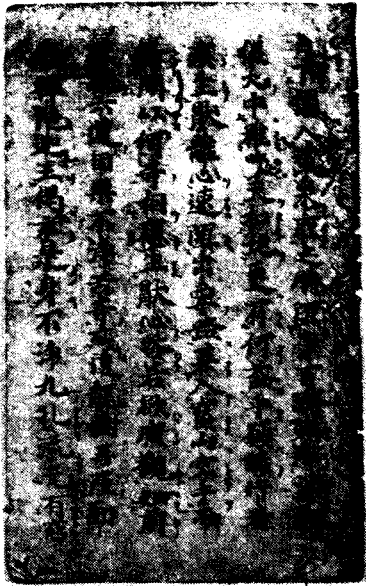
B本には鎌倉時代中期に付された詳しい訓点があり、さらに後代加えられた少なくとも二種の返点等が存している。読誦の様相を知るための好個の資料であると考えられるので本稿では、B本の影印及び訓読文を掲げた。

*

前稿同様、本作品の調査、撮影等については、三千院当局の御厚情を辱くした。特に大島亮幸師のお世話になった

ことが多大である。深く感謝するものである。また、訓読文の作成には、古田恵美子氏の全面的な協力を得た。併せて感謝の意を表したい。

〔影印本文〕



1丁



2丁

1丁

兼思惟不致思慮是七法名聖財事實無比
 善處觀蓋中間兼外寶如之雜貨可多
 寶貴多慮是及身若曼射素增諸苦如能多
 善善觀是當觀味如去無以智慧水灌令
 淨為存此時雜魔會身貪已去其諸煩惱
 致能者生果觀元上深無過如也
 本應然後宜廣修厥本下之分別有
 二物中言欲息初中後夜觀主其法動皮
 勿也通解如少過量恒河不離今春有暇
 靈細之極地來善清波散集不如是法
 靈善故致定固無漏釋地善清為至聖具
 前後八九數思國中亦謂思地不記也

37*

270

謂則及无間是地地故常應安住是東土
 應兼報若見顯顯開他言是隨經言
 如是知勝以乘急死復已身自老應若集有
 人下目中云云而分領其體比門與地狀一
 念營百十可分不及其一性言土中若无
 亦有地經及地經以明其
 身地經安樂地經中云云地經
 善能清淨地經自來我我云云
 善能清淨不淨百十方切其地經地經
 本本天大地地本本本本本本本本
 本本本本本本本本本本本本本本
 本本本本本本本本本本本本本本

47*

370

身若不修而欲求其長生者其心必亂
 亂則其氣必散氣散則其神必昏神昏則其
 靈必滅此學之要也夫道之遠已危地不修定
 慮思悲事不修情志而死已也若徒知空
 法而無子想弟夫竟於空明為其學也
 夫本得真覺常覺中人身中亦有五臟
 腑若作元氣若氣氣氣氣氣氣氣氣氣
 氣氣氣不存心若氣在大者則氣在大
 者為定氣和氣清則未修氣為定氣
 清則諸氣安氣清不存大氣者心清氣
 清善修善直善修今是故大氣者
 清善觀者為善直法若然則氣清氣

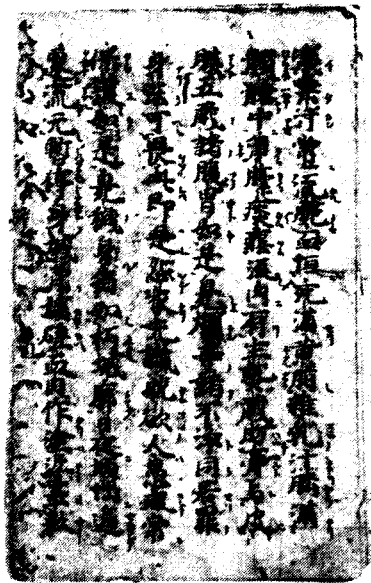
974

975

此是觀志有偏修是學去者是也
 夫道之遠已危地不修定慮思悲事
 不修情志而死已也若徒知空法而
 無子想弟夫竟於空明為其學也
 夫本得真覺常覺中人身中亦有五
 臟腑若作元氣若氣氣氣氣氣氣氣
 氣氣氣不存心若氣在大者則氣在
 大者為定氣和氣清則未修氣為定
 氣清則諸氣安氣清不存大氣者心
 清氣清善修善直善修今是故大氣
 者心清氣清善觀者為善直法若然

976

977

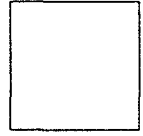


10丁ウ

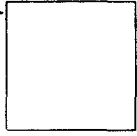
〔訓読文〕

凡 例

- 一、訓読文作成に当っては、原本において加えられている訓点に依った。
- 一、原本の仮名を片仮名で示した。濁音の音節に対しては、原本に濁音付の無い場合には濁音符をつけない。
- 一、不読の漢字は「」に包んで示し、再読の二度目の漢字も「」で示し、(再読)と注記した。
- 一、原本に声点が付されている場合は、当該字の下に(平)等と注記した。
- 一、句読点は原本にある点(ほぼすべて中下)を。で示し、私に補ったものを、で示した。
- 一、返点は原本では三種(もしくはこれ以上)存する。左下の星点(墨、鎌倉中期)を(反)で、中下のかりがね点(墨、鎌倉後期)を「反」で、左下のかりがね点(薄墨、室町時代)を(返)で示した。
- 一、補語は()内に片仮名で示したが、最少限(補語なしでは成立しない場合及び他の訓みと紛らわしい場合等)にとどめた。原本の訓が部分付訓である場合にも、補説はしていない。
- 一、原本の異体字は支障ない限り、通行の字体に改めた。
- 一、原本の丁の始まりは「で示し、欄外に注記したが、行については影印にゆだね、示さなかった。
- 一、本訓読文は古田恵美子が礎稿を成し、奥田が補訂して成稿した。



● 旬, 切点
● 基点



▽ 基点

ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ
カ	キ	キ	ク	ク	ケ	ケ	カ
サ	シ	シ	ス	ス	セ	セ	サ
タ	チ	チ	ツ	ツ	テ	テ	タ
ナ	ニ	ニ	ヌ	ヌ	ネ	ネ	ナ
ハ	ヒ	ヒ	フ	フ	ヘ	ヘ	ハ
マ	ミ	ミ	ム	ム	メ	メ	マ
ヤ			ユ	ユ	(江)	(江)	ヤ
ラ	リ	リ	ル	ル	レ	レ	ラ
ワ	キ	キ			エ	エ	ワ
ン	ン	ン	ネ	ネ	給	給	ン
シ、ミンキ、ウタ、ミ、ヒ、ア、ル							

〔仮名字体表〕

一丁オ(白)日(入)ノ下(入)ヲ(辞シテ)獨リ黄(平)泉(平)ノ底ニ入ル「之」時 多一白一踰(法)繕(通)那(上)ノ洞(判)然(去)猛一

火ノ中ニ墮チテ 天ヲ呼ハヒ地ヲ扣クト雖モ 更ニ何ノ益カ有ラム乎。願(ハク)ハ 諸ノ行一者疾ク厭一離

一ニ心ヲ生シテ速ヤカニ出―要ノ路ニ随ヘ、寶ノ山ニ入テ手ヲ空シクテ「而」歸ルコト莫、問フ 何等ノ相ヲ以

テカ厭―心ヲ生ス應キ、答フ 若(シ)廣ク觀ムト欲ハム 前ノ所―説ノ六―道ノ因(法)果 不―淨 苦―等ノ

如シ、或(イ)ハ復 龍樹菩薩ノ禪(法通) 施(通) 迦(通) 王ヲ勸―發スル偈ニ云(ハ)ク 是ノ身ハ不淨九ツノ孔(上)ヨ

一丁ウリ流レテ。窮メ「已ムコト有ルコト无(キコト) 河(法)海(上)ノ若シ。薄キ皮覆ヒ葬シテ。清―淨ニ似タリ。猶

璽―珞ヲ假テ自ラ莊(法) 蔽(上通)セリ。諸ノ有―智ノ人ハ乃チ分―別シテ。其ノ虚(法) 誑(上)ナルコトヲ知リテ 便

棄―捨(平)ス。譬(ヘ)ハ 疥アル者ノ猛利(法) 焰(平)ニ 近ツクニ初メテ暫ク悦フト雖モ後ニハ苦ヲ増スカ如ク。

食(法) 欲(去)ノ「之」想 亦復然(虫損) 団(通)。始ハ樂―著スト雖モ終患多シ。身ノ實ノ相皆不淨ナリト見ル。即 是レ

〔於〕空―无―我ヲ觀スルナリ。若(シ)能ク斯ノ觀ヲ修―習スル者ハ利―益ノ中ニ於(キテ) 最モ无上ナリ。

色―族(入通) 及―多―聞有ト雖モ。若(シ)戒―智无キハ猶禽―獸ノ(再統) 猶(通)シ。醜(虫損) 態(虫損) 賤(平)ニ處シ 聞―見少(補正)

2 丁オシ(虫損)「雖モ能ク戒―智ヲ修スルヲハ勝―上ト名ク。利(判)衰ノハ―法ハ能ク免ルムコト莫シ、若(シ)除―断ス

ルコト有ルハ真ニ匹(別業カ) 无シ。諸ノ有ラム。沙―門婆―羅―門ハ。父母。妻子。及 眷―屬ニライテ。彼ノ意(反)

二 丁オシ(虫損)「雖モ能ク戒―智ヲ修スルヲハ勝―上ト名ク。利(判)衰ノハ―法ハ能ク免ルムコト莫シ、若(シ)除―断ス

ノ為ニ其ノ言ニ受ケテ〇廣(ク)不_レ善非_一法ノ行ヲ造ルルコト莫カレ。設ヒ此レ等ノ為ニ諸ノ過ヲ起セトモ。
未_レ來(平)ノ大_一苦ヲハ唯身ニノミ受ク。夫レ衆(述)惡ヲ造ルニハ即チ報アラ不_レ。刀(述)劍(述)ノ交ハテ傷ヒ割クカ
如クニハ非サレトモ。臨(述)終(述)ニ罪_一相始メテ俱ニ現シテ。後ニ地獄ニ入テ諸ノ苦ニ嬰ル。信ト。戒ト。
2丁ウ 施ト。聞ト。「慧ト。慙ト。愧ト。放_一逸(セ)不_レル。是(ノ)如キ七ノ法ヲ聖_一財ト名ク。真_一實无_一比ノ

牟_一尼ノ説(ナ)リ。世_一間ノ衆ノ珍_一寶ニ超_レ越セリ。足ヌト知ヌレハ貧シト雖モ富メリト名ク可シ。財有
レトモ欲多キハ是ヲハ貧シト名ク。若(シ)財_一業ニ豊ナレハ諸ノ苦ヲ増スコト龍ノ首多ケレハ酸_一毒ヲ益
スカ如シ、當ニ美キ味ハ毒_一藥ノ如シト觀テ。智_一慧ノ水ヲ以テ灑イテ淨カラ令ム〔當〕シ 此ノ身ヲ存(去)留
(七)ム(カ)一_一為ニ食ス應シト雖モ色_一味ヲ貪テ憍_一慢ヲ長(上)スルコト勿カレ。諸ノ欲_一染(平)濁ニ於イテ。

3丁オ 當ニ厭ヲ生ス〔當〕シ。勤メテ无_一上_一涅_一槃ノ道ヲ求メヨ。此ノ身ヲ調(去)和(上)シテ「安_一穩ナラ令メテ。
然(虫)後ニ宜シク齋_一戒ヲ修ス應(虫)〇。一_一夜ヲ分_一別スルニ。五ノ時有り。二_一時ノ中ニ於イテ當ニ眠_一リ息
ム〔當〕シ。初_一中後_一夜ニハ生_一死ヲ觀シテ。宜シク勤メテ度ルコトヲ求ム〔宜〕シ、空シク過スコト勿
レ。譬ハ少_一塩(平)ヲ恒_一河ニ置クニ。水(ヲ)シテ鹹(去)味(平)有_レラ令ムルコト能ハ_レ不_レルカ如ク微(去)細(平)ノ

〔之〕惡ハ。衆_一善ニ遇ヒヌレハ。消(去)滅シテ散_一壞スルコト亦是(ノ)如シ。梵_一天(去)離_一欲ノ嫉ヲ受
クト雖モ。還テ无_一間ノ熾(去)燃(去)苦ニ墮チヌ。天(去)宮(上)ニ居(去)シテ光_一明ヲ具セリト雖モ。後ニハ地獄
3丁ウノ黒_一闇ノ中ニ入リヌ。謂(ハ)所_一黒_一繩(去)等_一活(去)地獄ノ。燒(去)割(去)刺(去)剝スルコト及ヒ无_一

間トナリ、是ノ八―地(去)獄常ニ熾(去)然(去)ナリ。皆是レ衆生ノ惡―業ノ報ナリ。若シ(去)圖(去)畫(去)ヲ見、他ノ

言ヲ聞キ。或ハ経―書ニ隨ヒテ自ラ憶―念シ。是(ノ)如クシテ知ル時ニスラ以テ忍ヒ難シ。況ヤ復己ガ身

(ニ)自ラ逡(去)歴(去)(セムヲヤ)。若シ(去)復人有テ―日ノ中二三―百ノ牙(去)ヲ以テ其ノ牀(去)ヲ鑽(去)ラム。阿―鼻―

地―獄ノ―念ノ苦ニ比フルニ。百千万―分シテ其ノ―ニ及ハ不。畜生ノ中ニ於イテ苦无―量ナリ。或ハ繫―

4丁オ縛(去)シ(去)及(去)鞭(去)撻(去)スルコト有リ、或ハ。明(去)珠(去)羽(去)角(去)牙(去)骨(去)毛(去)皮(去)平(去)肉(去)入(去)口(去)為(去)ニ殘

害ヲ致ス、餓―鬼―道ノ中ノ苦亦然ナリ。諸ノ須キ欲スル所。意ニ隨ハ不。飢―渴ニ逼メ所寒(去)熱

ニ困ミ疲(去)乏(去)等ノ苦甚タ无―量ナリ。尿(去)糞(去)穢(去)ノ諸ノ不―淨。百千万―劫ニ能ク得ルコト莫

シ、設ヒ復推シ求メテ。少―分ヲ得タレトモ更ニ相劫メ奪ムレテ尋イテ散―失(去)シヌ。清(去)涼(去)ノ秋ノ月

ニモ焰(去)熱(去)スラ患ヘ。温(去)和(去)ノ春ノ日ニモ轉(去)寒(去)苦ス。若シ(去)園(去)林(去)ニ趣ケハ衆(去)葉盡キヌ。設

ヒ清(去)淨(去)流(去)平(去)ニ至レトモ変シテ枯レ竭キヌ。罪―業ノ縁ノ故ニ壽長(去)遠(去)シテ。逡(去)ルコト―万

4丁ウ五―千―歳有リ。衆ノ楚(去)毒(去)ヲ受(去)クルニ空(去)ク飲(去)ルコト无シ。皆是レ餓―鬼ノ果―報ナリ。煩―惱

ノ駛(去)キ河ハ。衆―生ヲ漂(去)ヨハシテ。深(去)怖(去)畏(去)熾(去)然(去)ノ苦ヲ為ス。是(ノ)如キノ諸ノ塵(去)勞(去)減(去)セムト欲ハム。真―實解―脫ノ―諦ヲ修(去)諸ノ世―間ノ假(去)名ノ法ヲ離レテ。則清―淨ノ不―動ノ處ヲ

得應シ、(已上)百十行ノ偈有リ、今略―抄(去)(ス)若シ略ヲ存(去)セハ(者)馬鳴菩薩ノ頼(去)吒(去)和(去)羅

伎(去)平(去)濁(去)聲ニ唱ヘテ―云フカ如シ。有―為ノ諸―法ハ。幻(去)如ク。化ノ如シ。三―界ノ獄―縛(去)ハトシテ

5 丁才樂シム可キコト无シ。王一位高(注)顯シテ。勢一力自一(虫損)在ナレトモ。无一常既ニ至(虫損)レハ。誰カ存(去)スル(反)

コト得ム者。空ノ中ノ雲ノ。須一臾ニ散一滅スルカ如シ。是ノ身(去)虚(去)偽(去)平(去)通(去)ナルコト猶(去)苦(去)平(去)通(去)蕉(去)上(去)ノ如シ。
怨(去)為(去)り賊(入)為(去)り。親一近(虫損)因(去)可(去)ラ一不。毒一蛇ノ饑(去)ノ如シ。誰カ當ニ愛一樂ス(反)〔當〕キ。是ノ故ニ諸一

佛。常ニ此ノ身(ヲ)。呵シタマフ。〔已上〕(割注) 此ノ中ニ具ニ无常苦(上)空(上)无(反)我ヲ演フ、聞ク者道ヲ悟ル、
或ハ復、堅(去)牢(上)比一丘ノ壁ノ上ノ偈ニ云ク。生死ノ断(去)絶(入)セ(去)ルコトハ。貪一欲(去)嗜(去)味(去)平(去)通(去)ノ故ナ

リ。怨ヲ養フテ。丘(去)塚(去)ニ入(ル)。唐シク諸ノ辛(去)苦(反)ヲ受ク。身ハ臭キコト死(去)屍(上)ノ如シ。九ノ孔
5 丁ウヨリ不(反)「淨流ル。廁ノ虱(去)糞(去)ヲ樂フカ如ク。愚ニシテ身ヲ食ルハ異ナルコト无シ。憶一想シテ妄ニ分一別ス

ル。則 是 五一欲ノ本ナリ。智一者ハ分別セ不レハ。〇五一欲則チ断一滅ス。邪(去)念(去)ヨリ貪一著(去)ヲ生(去)
ス。貪一著(虫損)回リ。煩一惱ヲ生(去)マ(去)ス。正一念シテ貪一欲无ケレハ。餘ノ煩一惱亦盡キヌ。〔已上〕過去ノ癩(去)

樓(去)捷(去)駄(去)佛ノ滅一後ニ正一法滅セシ時ニ陀(去)摩(去)上(去)利(去)乎(去)菩薩。此ノ偈(去)ニ求(去)メ得(去)テ佛一法ヲ弘

二(去)宣シ无量ノ衆生ヲ利一益セリ、或ハ復 仁王經ニ四一非一常ノ偈有リ、見ル可シ、若(去)〔シ〕極一略ヲ樂ハ

シ。是(去)〔ノ〕如キノ觀ヲ作ス應シ、或ハ復大一經ノ偈ニ云ハク。諸一行ハ无常(去)〔ナ〕リ。是レ生一滅ノ法ナ

リ。生滅(去)ムシ已テ。寂一滅セルヲ樂ト為。〔已上〕祇園一寺(去)平ノ无一常堂ノ四ノ隅ニ頗(去)梨(去)上(去)ノ鐘有

リ、ムノ音ノ中ニ又此ノ偈(虫損)說(去)〔ク〕、病一僧音ヲ聞テ、苦一惱即 除ク。清(去)涼(去)上ノ樂ヲ得、三禪ニ入ルカ

如クシテ浄土ニ生(レム)ト垂ル、況ムヤ復 雪一山ノ大一士全一(去)身ヲ捨テ、〔而〕此ノ偈ヲ得タリ、行一者

6丁ウ 「善ク思一念シテ之ヲ忽(トキマケ)爾ニスルコト得(レ)不(レ)ル、 説ノ如ク観(ミ)察シテ當ニ貪一瞋一癡一等ノ惑一業ヲ離ルム

コト師一子ノ人ヲ追(ツ)フカ如クス應シ、外一道ノ无一益ノ苦一(去)行ヲ作スコト 癡ナル狗ノ塊ヲ追(ツ)フカ如クス應

カラ不、 問フ 不一淨苦一(去)无一常ハ其ノ義(ト)了(レ)易シ、現ニ見ルニ。法ノ鉢有リ、何ソ説イテ空トハ為ル、答

フ 豈(ト)経ニ説カ不ヤ、 夢一幻(ト)化(ト)平(ト)ノ如シトハ、故ニ夢ノ境ニ例(ト)シテ當ニ空ノ義ヲ觀ス〔當〕シ、西一(去)域

ノ記ニ云フカ如シ、波(ト)羅(ト)疍(ト)斯(ト)平(ト)國ノ施(ト)鹿(ト)林(去)ノ東ニ行クコト二一三一里シテ涸(カ)ケル池有リ、昔

7丁オ 一ノ隱(ト)士(去)有テ〔於〕此ノ池ノ側ニ蘆(ト)ヲ結テ迹ヲ屏シ博ク伎(ト)術ヲ習ヒテ神(ト)理(去)ヲ究メ極メテ能

ク瓦(ト)礫ヲシテ寶ト為シ。人ノ畜(ヲ)シテ形ヲ易(ト)ヘ使ム、但シ未(タ)風(去)雲(平)ニ馭(ト)リテ。仙一(去)駕(去)志ニ

陪(ト)ルコト能ハ〔未〕。 圖(去)ヲ閱キ古ヲ考(ト)ヘ 更ニ仙(ト)術ヲ求ム、其ノ方ニ曰ハク。一ノ烈一士ニ命(平)シテ

長キ刀ヲ執テ壇(平)ノ隅ニ立テ息ヲ屏シ言ヲ絶(ト)シメテ唇(ト)自(ト)リ且ニ速(ト)フ、仙ヲ求ムル者、中一壇(平)〔ニ〕シ

テ〔而〕坐シテ。手ニ長キ刀ヲ接リテロニ神一 呪(ト)ヲ誦シ視ルコト(ヲ)収メ聴クコトヲ反シテ 遲(ト)明

仙(平)ニ登ルトイヘリ、 遂ニ仙(平)方(去)ニ依テ一ノ烈一士(平)(ヲ)求メテ 數(ト)重(去)胎(平)ヲ加ヘテ。 陰(去)

7丁ウ 「徳(ト)入(ト)ヲ潜(ト)行ヒキ、 隱(ト)士(去)ノ曰ハク。願(ハク)ハ一(ト)夕(ト)聲(ト)セ)不(レ)耳。烈一士(去)ノ曰ク。死(ト)ナ

ムスラ尚(ト)辞(平)セ不(レ)シ。豈徒息ヲ屏サム(ヲ)ヤ、〔於〕是ニ壇(平)場(去)ヲ設ケテ仙一法ヲ受ケテ方(去)ニ依テ

行一(ト)事シテ坐シテ日ノ曛(ト)ルムヲ待ツ、ム(ト)暮(去)ノ〔之〕後ニ各(ト)其ノ務ヲ司ル隱(ト)士(去)神一呪ヲ誦シ

行一(ト)事シテ坐シテ日ノ曛(ト)ルムヲ待ツ、ム(ト)暮(去)ノ〔之〕後ニ各(ト)其ノ務ヲ司ル隱(ト)士(去)神一呪ヲ誦シ

烈一士(志)ハ鉛(鉛)キ刀ヲ按レリ、殆(殆)將ニ曉ケムト(再説)「將」ルニ「矣」忽ニ發シテ叫フ、時ニ隱(志)士(志)問テ曰

ハク。子(志)誠(誠)ツ、聲(聲)スルコト无カレト、何ヲ以テカ驚キ叫フ(ト)。烈一士(志)ノ曰ハク。命(命)ヲ受ケテ。

後、夜一分ニ至ルニ悟(悟)然(然)トシテ夢ノ若クシテ變(變)異(異)更ニ起(起)リツ。見レハ昔事(昔事)シ主。躬来テ

8丁才(才)慰判謝(慰判謝)スルニ、厚(厚)恩ヲ「荷ヘルコトヲ感シテ。忍ムテ報」語(語)不、彼ノ人震判怒シテ。遂ニ殺一害セ

見四。中一陰(中一陰)ノ身ヲ受ケテ屍(屍)ヲ顧テ嘆(嘆)惜(惜)シテ猶願スラク。世ヲ歴トモ言ハ不シテ以テ厚(厚)徳ヲ報

ニ苦一厄(厄)ヲ經レトモ恩ヲ荷ヒ徳ヲ荷ヒテ嘗テ聲(聲)ヲ出サ不、業(業)ヲ受(受)ケテ冠(冠)シ婚シ親ヲ喪シ子ヲ生マ

スル(三)泊一乎(泊一乎)毎ニ前ノ恩(恩)ヲ念テ忍ヒテ(而)語ハ不、宗(宗)親(親)戚(戚)屬(屬)咸ク見テ恠(恠)異ス、年六

8丁ウ一十有(十有)五ニ過キテ、我カ妻謂ヒテ曰(ハク)。汝言フ可シ(矣)、若(シ)語ハ不ハ(者)、當ニ汝カ子ヲ殺

ノミアリト。因テ其ノ妻ヲ止メテ殺一害スルコト无カラ令メムトテ遂ニ此ノ聲ヲ發ス耳。隱(志)士(志)ノ曰ハク。

我カ「之」過ナリ(也)、此レ魔ノ嬈(嬈)マス耳ト。烈子(烈子)恩ヲ感(感)シテ事ノ成ラ不ルコトヲ悲シムテ憤(憤)志

〔シテ〕〔而〕死ニキ、〔已上略抄〕夢ノ境是(ノ)如シ、諸一法モ亦然ナリ、妄一想ノ夢未(タ)覺メ

〔未〕ルトキニハ空ニ於イテ謂フテ有ト為、故ニ唯識論ニ云ハク、未(タ)真(真)覺ヲ得(未)ルトキニハ常

ニ夢ノ中ニ處セリ、故ニ佛説イテ生一死ノ長一夜ト為タマヘリト、

9丁オ 「問フ 若(シ) 无(一) 常苦(一) 空等(乎)ノ 観(乎)ヲ 作(サ)ハ 豈(一) 小(一) 乘(一)ノ 自(一) 調(去)自(去) 度(一)ニ 異(ナ)ラムヤ、

答フ 此ノ 観(ハ) 小(ニ) 局(ラ) 不(一)、 亦通(シ)テ 大(一) 乘(ニ) 在(リ)、 法華(ニ) 云(フ) カ如(シ)、 大(一) 慈(悲)ヲ 室(ト) 為(シ)、 柔(和) 上(上)

忍(レ) 辱(ハ) 衣(ナ)リ、 諸(一) 法(一) 空(ラ) 座(ト) 為(テ) 此(ニ) 處(シ)テ 為(シ) 法(ヲ) 説(ケ)ト、 「已(上)」 諸(一) 法(一) 空(ラ) 觀(尚) 大(一) 慈(一) 悲(一)

心(ヲ) 妨(ケ) 不(一)、 何(ニ) 況(ヤ) 苦(一) 无(一) 常(一) 等(ハ) 菩(薩)ノ 悲(一) 願(ヲ) 催(ス) ラヤ(乎)、「是(レ) 故(ニ) 大(若) 等(ノ) 經(ニ) 不(一) 淨(等)ノ

9丁ウ 觀(乎)ヲ 以(テ) 亦(菩) 薩(ノ) 法(ト) 為(リ)、 若(シ) 知(ラ) ムト 欲(ハ) ム 「者(一) 更(ニ) 經(ノ) 文(ヲ) 讀(メ)、 問(フ) 「是(レ) 何(ノ) 如

キ 觀(一) 念(ハ) 何(ノ) 利(一) 益(カ) 有(ル)、 答(フ) 若(シ) 常(ニ) 是(レ) 如(ク) 心(ヲ) 調(伏) スレハ 「者(一) 五(一) 欲

微(薄) 念(シ) 乃(一) 至(臨) 終(ニ) 正(一) 念(乱) 不(シ)テ 惡(一) 處(ニ) 墮(チ) 不(一)、 大(一) 莊(嚴) 論(ノ) 勸(一) 進

繫(一) 念(ノ) 偈(ニ) 云(フ) カ如(シ)、 盛(リ) ナル 年(患) 无(キ) 時(ハ) 懈(一) 怠(一) 忘(シ)テ 精(進) セ 不(一) 衆(ノ) 事(一) 務(ヲ) 食

營(シ)テ 施(ト) 戒(ト) 禪(ト) ヲ 修(セ) 不(一) 死(ノ) 為(ニ) 臨(ム)テ 吞(マ) 所(ル)ニ 方(ニ) 悔(イ)テ 修(善)ヲ 求(ム)、 智(者)ハ 觀

察(シ)テ 五(一) 欲(ノ) 想(ヲ) 斷(除) ス 應(シ) 精(一) 勤(習) 心(ノ) 者(ハ) 終(リ)ノ 時(ニ) 悔(一) 恨(一) 无(シ) 心(一) 意(既)ニ

10丁オ 專(至)テ 錯(乱) 念(有)ル 科(ト) 无(シ) 智(者)ハ 勤(メ)テ 心(ヲ) 捉(レ)ハ 臨(終)ニ 意(散)セ 不(一) 習(心) 專(至)セ

不(レ)ハ 臨(終)ニ 必(ス) 散(乱) ス 「已(上)」 又、 寶(積) 經(ノ) 五(十) 七(ノ) 偈(ニ) 云(ク) 「於(此) 此(ノ) 身(ヲ) 觀(ス) 應(シ)、 筋(脈) 不(レ)

更(ニ) 纏(ヒ) 繞(ル) 濕(ヘル) 皮(相) 裹(ミ) 覆(ヘ)リ 九(一) 處(ニ) 瘡(門) 有(リ)テ 周(一) 遍(シ)テ 常(ニ) 尿(尿) ノ 諸(ノ) 不(一) 淨(ヲ) 流

一(溢) ス 譬(ハ) 舍(ト) 「與(一) 箭(箭) トニ 諸(ノ) 殺(表) 等(ヲ) 盛(レ) タルカ 如(ク) 此(ノ) 身(モ) 亦(是) 如(シ) 。

雜(穢) 穢(其)ノ 中(ニ) 滿(テ)リ 骨(ノ) 機(機) 運(動) シテ 危(脆) ニシテ 堅(實) 非(愚) 。

10 丁ウ 夫ハ常ニ愛_レ樂_レ平_通ス。智_一者ハ染著_レ无_レシ。「淚_一唾_一汗_一常ニ流ル。臍_一血恒ニ充_一滿セリ。黃_一脂_一

〔平〕雜_一乳_一汁_一アリ。腦_一觸_一體_一中ニ滿テリ。胸_一膈_一痰_一癥_一癰_一流レ。内ニ生_一熱_一藏_一有_レリ。肪_一

〔注〕膏_一上_一ト〔与〕皮_一膜_一ト。五藏ノ諸ノ腹_一胃_一ト。是_一〔反〕如_一キ鼻_一爛_一等_一ノ諸ノ不_一淨_一ト同_一〔シ〕

ク居_一〔反〕マセリ。罪ノ身ナリ、深ク畏_レル可_レシ。此レハ即是_レ怨_一ノ家_一上_一ナリ。无_一識_一孰_一欲_一ノ人ハ。愚癡ニ

シテ常ニ保_一護_一平_通ス。是_一〔反〕如_一キ鼻_一穢_一身ハ。猶朽チタル城_一廓_一ノ如_一シ。日_一夜_一煩_一惱_一ニ逼_一メサ

レテ。遷_一流_一シテ暫クモ停_一ルコト无_レシ。身ノ城_一骨_一ノ牆壁_一〔ニハ〕血_一肉_一〔ヲモテ〕塗_一泥_一平_通〔ト〕

作_一〔シ〕タリ。〇〇 畫_一〔彩〕〔平〕